

オプトアウト用資料（当院ホームページ掲載用）

<p>研究課題名</p>	<p>急性心筋梗塞後の急性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対する MitraClip システムを用いた経皮的僧帽弁形成術の治療効果についての検討</p>
<p>当センターの研究責任者</p>	<p>高谷 具史</p>
<p>研究目的</p>	<p>外科手術リスクが高い高度の機能性僧帽弁閉鎖不全症を有する慢性心不全患者に対して MitraClip システムを用いた経皮的僧帽弁接合不全修復術は薬物治療単独と比較して死亡、心不全入院を有意に減少させると近年報告されている。</p> <p>急性心筋梗塞に対する血行再建後に、高度の急性機能性僧帽弁閉鎖不全症（Acute Functional Mitral Regurgitation: AFMR）を合併して心不全治療に苦慮し、人工呼吸器や補助循環の使用を要することがしばしばある。長期挿管や臥床はADL低下だけでなく栄養状態といった全身状態の悪化を招き、感染などの合併症を引き起こすリスクが高くなるため、可能な限り早期離床が望ましい。</p> <p>今回、急性心筋梗塞に対して血行再建を行った後に、AFMRを合併した急性心不全患者のうち、抜管困難もしくは補助循環の離脱困難で長期臥床を要する患者に対して MitraClip を行い AFMR に対して治療介入する事の有効性について検討する。</p>
<p>利用する情報</p>	<p>■対象</p> <p>2019年4月1日～2021年3月31日に当院で急性心筋梗塞に対して血行再建を行った患者様の内、高度 AFMR を有する心不全を合併し抜管困難もしくは補助循環の離脱困難な患者様を対象とする。</p> <p>■利用情報の内容 [記載例]</p> <p>診療情報、DPC 情報より、患者情報(例：年齢、性別、入院中や入院後の検査・治療内容、死亡の有無)</p> <p>■利用情報の該当期間</p> <p>2019年4月1日～2021年3月31日</p>
<p>利用情報の他機関への提供の有無 (有の場合はその名称)</p>	<p>なし</p>

個人情報の取り扱い	氏名や住所等の個人を特定できる内容は削除
企業等からの資金提供の有無 (有の場合はその名称)	なし
お問い合わせ先	担当者名：高谷 具史 循環器内科 電話番号：079-293-3131
備考	